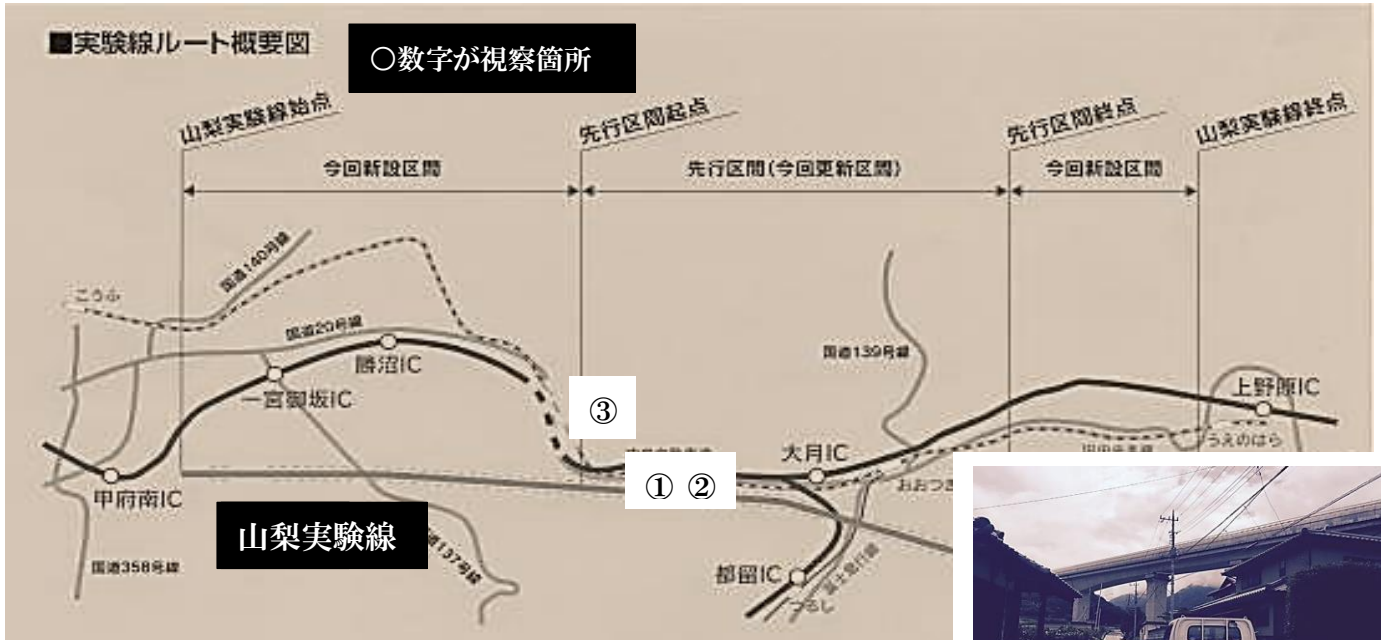


自然環境と住民生活の破壊～山梨ルートを見て 改めて知るリニア新幹線の異常さ (8月31日)

8月31日、リニア新幹線沿線住民ネットワーク参加団体は、山梨でリニア計画の見直しを求める市民グループの案内で、42.8kmに延伸された山梨リニア実験線の8か所を視察しました。以下はその報告です。



① 笛吹市御坂町板野～自宅真上30mに巨大なリニア高架橋が走る→



既設の実験線の高架下に住む雨宮さんの話～「12月中旬から2月一杯は殆んど陽が当たらない。補償は夫婦二人で二部屋分、それも一日4時間の電気代(夏)、と灯油代(冬)が払われるのみ。ただしその補償は30年間限り。実験線が二尾に通るたびに音と振動がある。開業して1時間10本ともなれば、ひっきり無しに悩まされる。また最近では、携帯電話が途切れたり雑音が入るなどの影響も頻発している」。

② 笛吹市御坂町上黒駒……トンネル工事で地下水は毎分30トン流出、周辺で井戸が枯れた……

実験線の延伸工事でトンネルが掘られた場所。現在はJR東海が水路をつくって小河川に流している。その流量は毎分30トン。JR東海が言う大井川の減水は毎秒2トン。こちらの僅か3倍に過ぎず、過少な予測ではないか。地下水はやむことなく勢いよく流出し、周辺の集落では井戸枯れが起きた。また、水枯れの沢からは魚や貴重なトンボが姿を消した。こうした地下水の流出は沿線各地で起き貴重な水が喪失する。

③ 笛吹市八代町奈良原～ここでも沢枯れ、実験線より高い場所なのに

この地区の高まった奥に水田がある。実験線のトンネルから100mほど離れ、30mほど高い場所だが、沢は枯れ、急ぎよJR東海が井戸を掘って、水田に

供給している。左写真は底のコンクリートがむき出しで乾いている。右は、水田に隣接してJR東海が造った井戸。これも電気代などは30年後には土地所有者が払わなければならない。



上はリニア高架橋と地下水導水路



④山梨県駅

予定ルート

④リニア山梨中間駅は地盤が緩く度々冠水する場所建設予定……

山梨中間駅は甲府市大津町の県立工業技術センターに隣接する場所（現在は水田）に建設予定。この場所は昔から水はけが悪く豪雨の際には冠水するという。中央高速にスマートインターをつくり、車でのアクセスを良くするというが、中央線甲府駅から3 kmも離れており、その連絡道路の整備などの経費は地元負担となる。



⑤南アルプス市戸田地区～高架下になる14戸が立ち退きに……



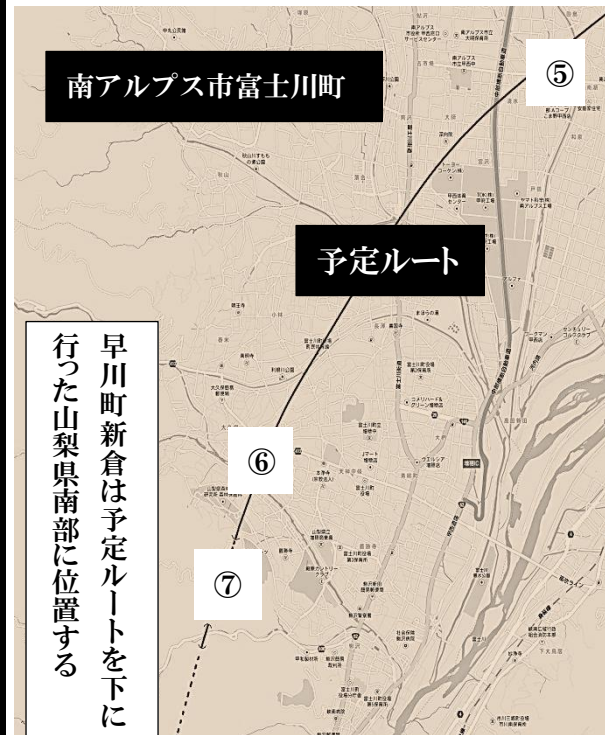
戸田地区区長の高野さんらの話～「住民の理解を得てから工事を始めると言っていたのに、いつのまにか、住民の理解を得たことにして工事を始めるとJR東海は言い出した。説明会は拒否している。南アルプス市は扇状地でサントリーも売っている美味しい水が出る。工事で影響が心配。母親など女性の声も聴き、JR東海に変更を求める」。

（右は戸田地区の工事反対の幟旗）

⑥南アルプス市富士川町では地域分断



富士川町も高架でリニアがつくられる予定だが、地域の中心である公共施設が軒並み立ち退くことになる。住民にとっては寝耳に水であり、またリニアの高架橋が地域を分断することになる。こうした事態は山梨の市街地のそこかしこに生まれる。



⑦子どもたちが集う県民の森を壊してトンネルができる……

富士川町の県民の森・森林科学館は小高い山に森と広場が広がる憩いの場である。そこに、南アルプス長大トンネルの山梨県側の入り口である早川町新倉に向うトンネルが掘られる予定だ。生態系への影響や景観の喪失が心配である。

⑧悪夢のリニアの象徴、南アルプスの25kmトンネルが掘られるのがここ。近くには糸魚川静岡構造線が走る……

右写真は南巨摩郡早川町新倉のトンネル掘削予定地。右側の崖から



掘削口までの道路は狭く、拡張工事で自然破壊も心配だ

一旦橋梁で谷を渡り、左側の山から長野県側に向って南アルプスの下を掘り進む。左側にはすぐ間近に最も活発な断層帯である「糸魚川静岡構線」が縦断しており、新倉にはその露頭が見られる。既に3 kmにわたって試掘が行なわれており、「異常出水などが見られないので、南アルプの下を掘っても大丈夫」とJR東海は言っているそうだ。（報告・天野）

(1面より続く)

回答 消磁の方法は検査時と避難時で異なる。避難時には必要に応じて超電導磁石を即座に消磁して磁界を無くすることも可能であり、磁界が避難に与える影響は全くない。消磁は乗務員が行う。その具体的な消磁方法については確認する。「即座に消磁」という「即座」とは、超電導磁石の磁力が抜けるまでの時間を意味するもので、少なくとも消磁操作をしてからお客車を車外に出すまでの過程で、消磁が終わらないから車外に出せないということにはならない時間ということである。お客さんへ緊急事態の説明や避難の説明をしている間に（消磁が）終わるということである。ただしその時間は明言できない。

JR東海が沿線自治会宛に井戸調査協力の要請

8月に、JR東海は川崎市内のリニアルートにかかる幅員15m内にかかる住民に対し、井戸の調査を行うので協力を求める文書を関係自治会・町内会宛に配布しました。文書には発行の日付も無く、また調査の開始日時についての記載もありません。「中央新幹線品川・名古屋間 大深度区間における井戸等の物件調査へのご協力をお願い」と題するこの文書は「ルート上に40m以上の深井戸等の物件があるかどうかの調査を行います」として、根拠は**大深度法第13条**に基づくとしています。井戸等と言いながら、家屋調査や地盤調査は行わないことがうかがえます。また調査に係る時間は20分程度で、手続きを済ませるだけの住民にとっては実感が無く誠意が感じられない調査です。文書には当該地域の地図と、幅員や長さの表示が無い地図が添付されており、一見した限りでは町内のどこをトンネルが通るのか全く分かりません。文書と地図は回覧で回され個別にはポスティング等で調査の実施を伝えると付記されています。これまでのJR東海から具体的なルートや影響について詳細かつ具体的で丁寧な説明が無かったため、「寝耳に水」の住民も多いと見られます。JR東海は、市内のは大深度だから、騒音や振動はもとより地盤沈下も無いという説明を繰り返してきました。それに対し私たちは、大深度だから安全という実証実験もデータも無いことから、工事中や供用後に被害が出た場合の誠意ある対応を求めて来ました。このままでは、住民が自ら自宅の家屋調査を行なって自衛するしかありません。川崎市も「法令に基づく」ことだけで看過することなく、住民の理解を得ないまま、着工を急ぐJR東海に対して、より丁寧な説明と慎重な姿勢を求める責任があると考えます。

※大深度地下の公共的使用に関する特別措置法第13条(略)
事業者は使用の許可を受けようとする時は、あらかじめ事業区域に井戸その他の物件があるかどうかを調査し、当該物件がある時は、物件の数、地番、所有者と権利所有者の氏名・住所を記載した調書を作成しなければならない。

フリージャーナリスト・榎田秀樹さんが『悪夢の超特急 リニア中央新幹線』でJCJ賞受賞！



授賞式で挨拶する榎田さん

8月15日午後、東京・飯田橋で第58回JCJ賞の授賞式が行われ、新聞報道やテレビ・ラジオ番組、出版物から6作品が選ばれ、日本ジャーナリスト会議から表彰されました。大賞は辺野古基地反対の人びとの活動を報道し続けた琉球新報社が選ばれました。リニア計画の見直しを求め活動する沿線の住民運動を丁寧に取材し、その中から計画の異常さ、強引さをあぶりだした榎田秀樹さんの『悪夢の超特急 リニア中央新幹線』がJCJ賞に選出され、賞状と記念品を授与されました。審査委員会から、「原発建設もかくありなんでしょう。こんな計画が進められていたことに驚く。ショッキングな計画内容について知らせる貴重な著作だ」との選評が述べられました。榎田さんは受賞の挨拶で、「最初は大学の出版社の雑誌で連載した内容をまとめた形で出版の準備が進められ、初版の3千部を刷った。ところが大学側からクレームが付き、3千部は断裁された。その後いろいろな出版社に依頼したが断られ、ようやく旬報社が快く引き受けてくれ出版できた。受賞によって、来年には第二弾を出そうと意欲が出た」と話しました。

ここが問題！リニア新幹線NEWS NO. 35

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津) 090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩) 090-6108-6568